



協体さふじ

「藤沢市体育協会広報」第 8 号

発行日 昭和63年3月31日
発行編集 藤沢市体育協会
〒262 藤沢市 藤沢3172秋葉台文化体育館内

藤沢市における スポーツツーン開発計画

藤沢市教育委員会教育長 神部 昭三

英語の「スポーツ」には「気晴らし」という意味がある。語源をたどると、古いラテン語の「デスホルテ」——これは単に「仕事を離れる」という意味だ。それが近年は「競技」の意味合いが増してきた。より速く、より遠く……。だが、健康を目的とする人、ことに中高年の人たちはほとんどにしないでほならない。」

(62・10・10 読売新聞社説)

文部省がまとめた六十一年度の体力・運動能力調査によると、中高年令層の体力は、五十五年度から漸増傾向を示してきたものが六十年年度には各年令を通じてダウンしたそうである。暇を見つけてはスポーツに励む中高年の努力も限界のあることが示されたという見方もあるようである。この調査の分析にあたった筑波大学の松浦義行教授(体力学)によると「中高年の場合、運動増はそのまま体力増に結びつかない。毎日ジョギングするより、歩く程度で十分で、体の調子の悪い時は運動を休むという勇気も必要である。」と分析している。

本紙七号の冒頭に、県体協馬飼野副会長も紹介されているように、昨年秋、藤沢市教育委員会においては「スポーツゾーン基本構想」を策定した。この構想をまとめるにあたって、六十一年度に庁内プロジェクト「スポーツのまちづくり委員会」を発足させ、これと併せて民間の調査機関に「スポーツゾーン開発調査」を委託し、その報告をもとにプロジェクトで検討した結果をまとめたものが、この基本構想である。

週休二日制による自由時間の増大、医療の高度化等による平均寿命の延長等、現代社会の状況から、「いつでも」「どこでも」「だれもが」手軽にスポーツ、レクリエーションを楽しむことができる「スポーツのまちづくり」を進めようという主旨によるものである。

構想の概要は、市内に点在するスポーツ、文化などの拠点系施設と、緑道、サイクリングコースのようなみち系の施設を有機的に結び、市民が積極的にスポーツ活動に参加したくなるような、スポーツゾーニング

を行おうというもので、市内を地域分類により十三地区に分けた日常圏(住区)から、週末圏(広域)をも考慮して分割した六ゾーンを設定する。そこで行われるスポーツ活動はコミュニティスポーツを基本としたもので、質の高いスポーツライフが実現できるよう、拠点施設の機能向上と、より広い開放及び各種イベントの積極的な開催等を計画的に織り込む。そのことにより、従来に比べて、より幅広い、しかも内容の豊かなスポーツ活動の場を提供しようというものである。

又、そのスポーツゾーンの中で展開される活動・行動の主な運動要素としては、

1. エネルギーを消費する運動
2. 酸素摂取を高める運動
3. 骨格筋を強める運動及び身体の柔軟性、可動性を高める運動
4. 精神的ストレスに対応する運動
5. コミュニケーションを高める運動

等が考えられる。

具体的なプランニングは、今後現地調査を行った上で、関連各課の整合を図りながら進めて行くこととなるが、市民に対する真の健康増進のために喜ばれるものとなるよう努力するつもりである。



神奈川県に於けるクレイ射撃の変遷からみると、大森から鶴見の東寺尾にある現在の総持寺の敷地内に、大正五年に移転建設された射場での帝国猟友会の大会がはじめてとされており、神奈川県は日本のクレイ射撃の発祥の地と云う事ができる。藤沢市射撃協会に於ては、戦争で中断していた射撃競技も終戦を迎え全国的視野のもとで、大学射撃部出身者を中心とした同好の士により、まずライフル射撃の復活と振興がはかられ、クレイ射撃との合体に成功したのである。これにあたり主導的な役割を果たされたのが現協会顧問の安齊実氏であり、氏が会長として昭和二十四年に藤沢市射撃協会が創

立され、クレイ射撃の先鞭をつけたものである。そして全役員の協会振興と発展の為の弛まざる努力と熱意に依って今日の協会の基礎がつくりあげられたのである。

昭和三十九年の東京オリンピックを契機にスポーツとしての射撃に対する一般の関心が高まり射撃人口の急速な伸長を示した。

それまで狩猟団体の一部の事業として行われてきたクレイ射撃も、完全な競技種目として一般の人々に理解されるようになり、優秀選手が募集されるに至った。

現在では県猟友会藤沢支部、藤沢北支部そして藤沢及び藤沢北両銃砲安全協会が、それぞれの組織により毎年二〜三回の大会が企画実施されている。

協会主催による大会は、市民大会を含めて年三回行われ県総体にターゲットを合わせ練習を重ねている。

昭和四十三年十月十日の県内都市対抗大会に現相談役鈴木文治氏や現会長の伊藤喜三郎氏他の代表選手が出場し、上位入賞を成し遂げた。

又昭和五十年から近隣市協会との交流をはかり、親睦と技術の向上、更に銃器、火薬類による事故防止の研究目的をもって藤沢・茅ヶ崎・鎌倉三市協会対抗射撃会を毎年他県の射場へのバス遠征によって行われて

いる。

更に充実してきた協会から、昭和五十八年第三十八回国民体育大会赤城国体に神奈川県代表として、矢部重信選手を送ることができた。勢いに乗り協会は、昭和六十年十月十日第十九回都市対抗射撃大会（現県総体にあたる）にトラップの部、伊藤喜三郎・矢部重信・瀬川宗明・石原茂起・新戸利和の各選手のベスト構成で悲願の優勝を成し遂げている。

翌六十一年、県総合体育大会の正式種目として認められ意義ある大会

昭和62年度射撃協会登録状況

一般

男 百四十五人

女 二人

合計 百四十七人

県立伊勢原射撃場

住所 伊勢原市上粕屋 2380

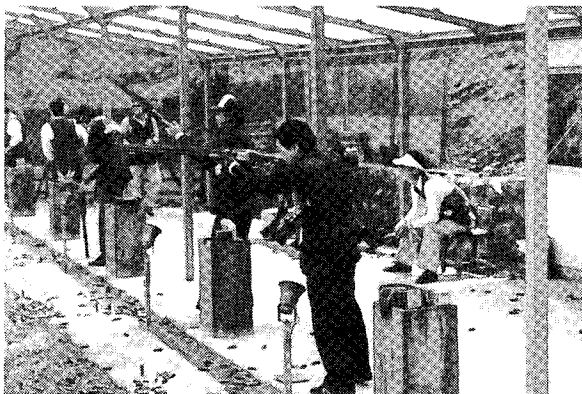
TEL 0463 94 4352

クレイ射撃場 0463 94 4352

ライフル射撃場 0463 94 4355

となり、過去の実績から大きな期待をかけられたが、総合六位・続いて第三十八回大会は、五位という成績に終わっている。

以上が当協会の事業活動であるが射撃協会は他の協会とは異なり、国から銃砲所持を許可された会員に依って構成されており当然ではあるが矢継ぎ早の極めて厳しい法規制の下での協会運営は非常に困難なものがあ、安齊・小泉・両銃砲安全協会長をはじめとして、役員一同所轄署との連絡を密にしつつ協会事業推進のため努力しております。



第三回スポーツ人の集い開催される

去る二月十三日(土)第三回スポーツ人の集いが、藤沢市民会館小ホールに於いて、藤沢市教育委員会との共催で加盟二十二種目協会はもとより、各地区社会体育振興協議会をはじめとする市内各スポーツ関係者多数の御参加・御協力を得まして盛大に開催されました。

第一部では、藤沢スポーツ賞授与式が行なわれ、優賞団体三団体と優秀選手九選手が表彰され、その中には国民体育大会卓球で優勝の橘川美紀選手をはじめ、県総体で優勝の男子バレーボールチームも初めて受賞しました。

第二部の講演会では、プロ野球日本ハム球団常務で、地元藤沢市出身の大沢啓二氏が、豊富な経験をもとにユーモアあふれる口調で四〇〇人の聴衆を魅了しました。

その後、会場をレセプションホールに移し、大沢先生、葉山市長をはじめ約二三〇名の方々の懇談が和やかに行なわれ、参加者間の交流を深めながら盛会裡に閉会しました。

藤沢スポーツ賞受賞者の御紹介

《優秀選手》

橘川美紀選手(卓球)

海邦国体に優勝・全日本社会人女子ダブルス優勝・全米オープン女子ダブルス三位入賞

生駒日登美選手(卓球)

全日本社会人女子ダブルス優勝・

全米オープン女子ダブルス三位入賞。

宮本功三選手(柔道)

全国高等学校総合体育大会71kg以下級で優勝・全日本新人体重別柔道選手権大会71kg以下級で準優勝。

青池優美選手(卓球)

全国中学生卓球選手権女子シングルス並びに全日本卓球選手権ジュニアの部女子シングルス準優勝。

河合雅世選手(卓球)

アジアジュニア卓球選手権大会女子シングルス第三位入賞。

平井由規子選手(卓球)

全日本卓球選手権大会カデットの部女子シングルス準優勝

《優秀団体》

第38回県総体代表

男子バレーボールチーム

本年度も優勝し二年連続優勝

武田薬品工業株湘南工場女子卓球部

日本リーグに年間優勝・内閣総理大臣杯受賞・全日本実業団選手権優勝・全日本団体選手権第三位入賞。

藤沢市立御所見中学校女子卓球部

全国中学校卓球選手権女子団体の部優勝

三浦・郡市対抗駅伝

本市選手団大健闘

昭和62年度三浦半島県下駅伝大会は、本市2チームの参加を含む31チームで繰広げられました。その中の郡市対抗の部では17チーム中Aチーム3位・Bチーム8位の成績を残しおりからの強風に向う選手達の身体に汗がにじんでいました。

さて、二月十四日は伝統のある第42回郡市対抗駅伝大会が開催されました。県立西湘地区体育センターを起点に相模湖漕艇場を終点とする総距離71・1kmを9区間で走破されます。起伏の多い難関の区間もありますが、自然風美を横目に歯をくいしばって力走する姿に、沿道の人達から温かい声援を贈られていたのが印象的でした。

県内26郡市の参加の下に、例年にもまして白熱したレースが展開され、本市代表チームは、スタートで後手をひいたものの徐々に挽回し、一時は4位に進出した事もあったが、最終的には6位でゴールインしました。これは、最近の低迷を吹きとばす10年ぶりの好成績です。チームの構成が高校生主体で若さがみなぎっており、今後の練習次第ではもう一つ上が望めると期待しています。

スポーツ人の集い



藤沢スポーツ賞受賞者の皆さん

県総体スキー

総合6位入賞!!



第39回県総体冬季大会スキー競技

会は、長野県野辺山ハイランドスキー場で開催されました。雪不足のためノルディック競技の開催が危ぶまれたもの予定通りのプログラムが実施されました。カルガリ、オリジニックの代表選手が練習していた事もあって、コースコンディションは非常にむずかかったようです。それは途中棄権が数多かつたことで裏付けされています。

県内19郡市の参加があり、本市代表選手団は、総合で第6位の好成績に沸きました。

とりわけ個人の部門をみると輝かしいものでありました。回転壮年Aの種目で井上茂則優勝・大回転壮年Aの種目で井上茂則第3位・距離成年の種目で吉原輝文第3位、とそれぞれ大活躍を遂げました。

スキー競技の選手を探すことはかなりむずかしく、スキー協会の御苦労が考えられます。社会体育の中で冬季種目に参加していくのは、各都市とも苦労しているようですが、今年の実績を土台に、更に一層のご協力をお願い致します。

昭和62年度賛助会員

本年度も、本体育協会の趣旨を深く御理解いただき御入会くださいまして誠にありがとうございます。昭和63年3月31日現在の会員の方々のご芳名を掲載させていただきます。

(個人会員) (芳名) (順不同・敬称略)

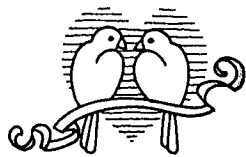
中山二郎・設楽孝治・熊山喜三郎・神川治任・山田勉・内田重郎・小池美知子・土屋保三・沼上正・大島由紀夫・山川彦市・重原慶健・勝呂三夫・鈴木明夫・木島英夫・秋元孝行・根岸勇・佐藤勝夫・藤田正辰・伊東満・瀬川進・寺岡武史・高科明河合美千世・桑原隆行・関根宗四郎水流栄一・岩崎只子・糸井勝平・渡辺英一・吉野久敏・三保谷修二・波多野和敬・二挺木幸雄・小川明・桜井浅之・糸井勝治・関水清・石井洋秀・宮本隆・柴崎鉄雄・栗原義夫・柳居祐三・市川弘・中里敬・原弘之・山本幸男・荒井勝男・柳川賢・桜井正男・橋本篤治・小島正幹・瀬川宗明・上笹秀雄・山本敏秋・鹿島昇・新戸利和・石井幸夫・工藤孝二・矢部重信・渡辺博美・鈴木一郎・伊藤喜三郎・鈴木得郎・小泉勝彦・端山正美・石原茂起・水村周治・鈴木文治・野口肇・野口忠成・丸山勇・木

村英勇・高山年正・小野孝一・高取節男・長谷川忠勤・薩美秀夫・岩田明・小川竹次郎・杉山喜一郎・山本捷雄・山口雄司・竹内俊樹・関水正文・滝内正敏・小林恵三郎・川路久男・井上吉男・久木田善藏・山崎智昭・齋藤勇・桜井脩平・高橋孝雄・蔵内隆良・橋之口清己・金田育・高橋一順・加藤賢治・遠藤守・宮治敬二・番場定孝・関根智治・浜田徹・服部忠幸・坂本良作・安斉久雄・中尾是雄・中島修・唐沢邦之・小野隆弘・鴻野久雄・木村三男・鈴木恒夫清水久雄・杉淵武・西島真吾・蝶名林睦・中丸初男・服部玖三・本間暁一・中島哲郎・竹内真佐子・稲垣智子・石塚妙子・西島一光・加藤誠・橋本幸俊・小菅定雄・温井一光・川島尚二・瀬戸満里子・西島淳一・東昭一・尾鷲和重・宮治政弘・矢作幸雄・柳谷力

(団体会員) (芳名) (順不同・敬称略)

芙蓉観光(株)・藤沢市ハンドボール協会・ミネベア(株)東京螺子体育部・藤沢信用金庫・藤沢商業高等学校(株)在原製作所体育会・関東航空計器(株)藤沢市柔道協会・富士バルブ(株)一部・オイレス工業(株)・伊澤運動具店・御所見剣心会・プレス工業(株)・藤沢高校バレー部OB会・遠藤青少年剣道部後援会・関水スポーツ・藤

沢市弓道協会・藤沢ロータリークラブ・藤沢市山岳協会・修武館伊沢道場・藤沢市剣道連盟・NOK(株)双筒会藤沢支部・藤沢市体操協会・藤沢市職員福利厚生会・山武ハネウエル(株)・藤沢北西ロータリークラブ・藤沢歯科医師会・藤沢市野球協会・杉山スポーツ・藤沢家庭婦人バレーボール連盟・藤沢市農協剣道部・スカイブルー少年団・藤沢市空手道連盟拳勝館選手会・藤沢市空手道連盟拳勝館拳和会



本年度は個人会員一三八名・団体会員三四団体のご加入をいただきました。厚く御礼申しあげます。

本制度を設けて、四年目に入り、新年度はあらたな企画をと、考えております。ひきつづきまして、皆様の御厚意を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 藤沢市遠藤三二七二

秋葉台文化体育館内 藤沢市体育協会事務局

TEL 88-1111